

標記について下記のとおり報告します。

報告者 部会長 竹内 仁

日 時	2017年2月1日(水)
場 所	城陽市福祉センター 2階 会議室
出 席 者	宇治支援学校(1名)、あんびしゃ(2名)、魁(1名)、はびねす(2名)、城陽作業所(1名)、野の花(1名)、みんななかま(3名)、福祉課(1名)、自立支援協議会事務局(1名) (参加者数:13名)
欠 席 者	ナプラス(2名)、庭一造園(1名)、DIVE(1名)、就労促進授産支援ネットワーク(1名)、あつぶ(1名)
検討課題	1. インターンシップ受け入れ企業獲得のための案内パンフレット、配布方法と役割分担の提案、2. 各事業所の就労の取り組み発表、3. その他(他の障がい者自立支援協議会状況、情勢の共有、連絡事項等)

【議事録】

1. インターンシップ受け入れ企業訪問にむけての提案

- ・インターンシップ受け入れ企業訪問にむけて、参考資料(企業訪問マニュアル(案))に沿って提案。
- ・就労部会が取り組んだナプラスへのインターンシップが記事として掲載された城陽市広報を説明資料として、持っていく。

【意見交換】

- ・ナプラスと連携をとり、中小企業家同友会関係企業から訪問を進めていき、実績を積み重ねていくことが大切だと思う。
- ・就労部会構成員事業所へインターンシップ希望アンケートとり、あんびしゃと野の花より返事がかえってきている。
- ・学校では、インターンシップを受け入れて頂いた企業には、生徒の情報を知らせている。
- ・インターンシップに参加する障がいのある人の経験した作業とか、事業所で取り組んでいること等、企業と情報共有をした方が良い。また、障がい当事者の経験と学習の意味等、何のためにインターンシップをするかも企業に伝えた方が良い。
- ・名簿、特性、経験した作業と事業所で取り組んでいることを記したリスト化したものを提示。
- ・まずは企業理念への共感、次に人間関係、その次に仕事内容から、受け入れ企業を選択していくことも重要。
- ・来年度にパンフレットの配布も進めていく、第一次印刷枚数を城陽市としてできる範囲を確認。就労部会としては、第一次枚数を数百枚と考えている。
- ・訪問時、決定権を持った人に会わないと2回・3回と訪問が必要となってしまう。アポイントとして何時に訪問するかを企業と確認しておくことも必要。
- ・予備知識をもって共通話題を持って行った方が話はスムーズに進む。
- ・企業訪問の情報共有も必要。(SNS等)
- ・インターンシップを進め、利用者(障がいのある人)を支援する立場の福祉事業所職員が、企業との連携方法について勉強する機会を持った方が良いと思う。中途半端な状態で送り出すのは失礼にあたると思うが、どうでしょうか?
- *事業所むけの研修会を設定しても良いのではないかと思います。
- *教職員の実習の引率にむけ、服装・話し方等、基本的な研修を行っている。
- *あまり知識もないので、そういう研修会があると助かる。
- *次回(4月)の部会で、研修をしたらどうか、教職員でやっている研修をこの部会でもしたらどうか。講師に宇治支援学校の先生にお願いしてはどうか。
- *また、以前各事業所の就労の取り組み発表であんびしゃより「就労ピラミッド」の話があった。就労へと送り出す構えとしてとても重要な話だと思うので、再度4月の部会での研修で話しをしていただきたい。
- *企業との繋がりが広い、はびねすからも話しをしてもらいたい。
- *放課後ジョブについても、城陽市より説明をしたい。
- *4月の就労部会では、企業との連携方法の基礎研修と、山城北圏域就労部会が取り組んでいる放課後ジョブの説明を行う。

2. 各事業所の就労の取り組み発表(宇治支援学校より報告)

- ・児童生徒 272 名。府立では大きい学校。教職員数 210 名。
- ・高等部では将来を見据えて「働く」を学習。
- ・企業開拓については、進路指導部が中心に行っている。また、企業開拓の一環として長期休暇には全職員が一件、企業に電話している。
- ・ハロワーク求人票から生徒ができそうなところリストアップして電話をしている。毎年 10 件～15 件は訪問して就労に繋がったこともある。
- ・企業就労した生徒で、企業が褒めてくれることは「挨拶」「返事」。基本的なコミュニケーションは学校で学んでほしいと企業から言われる。
- ・平日、学校を公開したり、カフェを設けたりして生徒が接客しているので見に来ていただきたい。

【意見交換】

- ・働くことに関する意識とアプローチはどうしているのか
- *地域に出て清掃作業を行い「ありがとう」と言われる経験をする、勤労観というのを感じてもらおうようにしている。また、農園芸で作ったものを校門の前で売り、自分の作ったものが売れていくという喜びを体験する。そのことが働くという意識に繋がっていていると思う。
- ・いつも就職希望はどれくらいあるのか。
- *今年度は 24 名希望、昨年度は 27 名の卒業生中 8 名、年度によって違う。
- ・卒業した生徒が学校公開のときに、就労の状況報告に来たりできることが良いと思う。
- *公開しているときのカフェで、悩みを話しにきている生徒もいる。そのことが企業就労の継続にも繋がっている。また、在校生の就労意欲への刺激にもなっている。

3. その他（他の障がい者自立支援協議会状況、情勢の共有、連絡事項 等）

- ・城陽支援学校も城陽の就労部会に入ってもらったらどうかと、山城北圏域就労部会から意見があった。本日の部会で確認できたら城陽市から説明をしようと思っている。
- ・城陽市保護課へのインターンシップにむけて
- *2017 年度 5 月頃、具体的に市と相談し 5 月もしくは、6 月頃実施を目指したい。

4. 次回の就労部会にむけて

- ①インターンシップにむけて「企業との連携方法」についての基礎研修（講師：宇治支援学校、あんびしゃ）、②その他

※配布資料添付のこと

次回開催日：2017 年 4 月 19 日